



昭和電線グループ 2023年3月期 第1四半期

決算補足説明資料 Aug 3, 2022

昭和電線ホールディングス（株） 東証プライム（5805）

2022年度 第1四半期決算 概況

経営環境

- ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中国・上海のロックダウンの影響により、原材料・物流価格高騰や円安の進行、グローバルサプライチェーンの混乱が継続。
- 半導体不足により自動車関連製品の需要が減少。
- 電線業界においては、電線全体の需要は微減。
- 銅の国内建値平均価格は、前年同期より上昇。

売上高

出荷銅量が減少した一方、銅価格上昇により、全体としては**前年同期比増収**。

【主な事業分野別状況（前年同期比）】

電力インフラ・・・大型件名は減少したものの再生可能エネルギー関連の需要を獲得。

自動車・・・昨年から続く自動車減産の影響を受け、高機能製品の需要低調。

産業用デバイス・・・需要は増加したものの、グローバルサプライチェーン混乱の影響が継続。

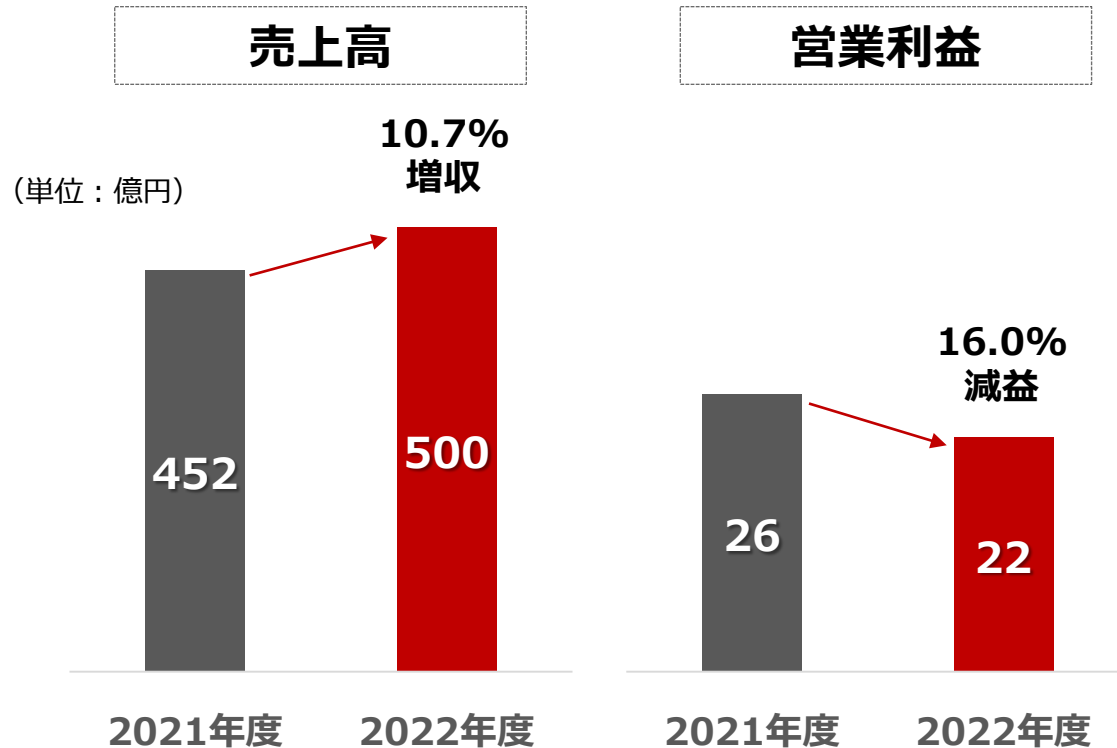
営業利益

前年同期比減益。原材料価格高騰に対して販売価格見直しや原価低減を進めるも、一部製品での価格転嫁の遅れや、自動車減産、グローバルサプライチェーン混乱の影響を受けた。

2022年度 第1四半期決算のポイント

1Q前年同期比

出荷銅量が減少した一方、銅価格上昇により、
前年同期比増収減益。



1Q進捗率

売上高については、**平年並み**の進捗。
営業利益については、**過去4年平均を上回る**進捗。

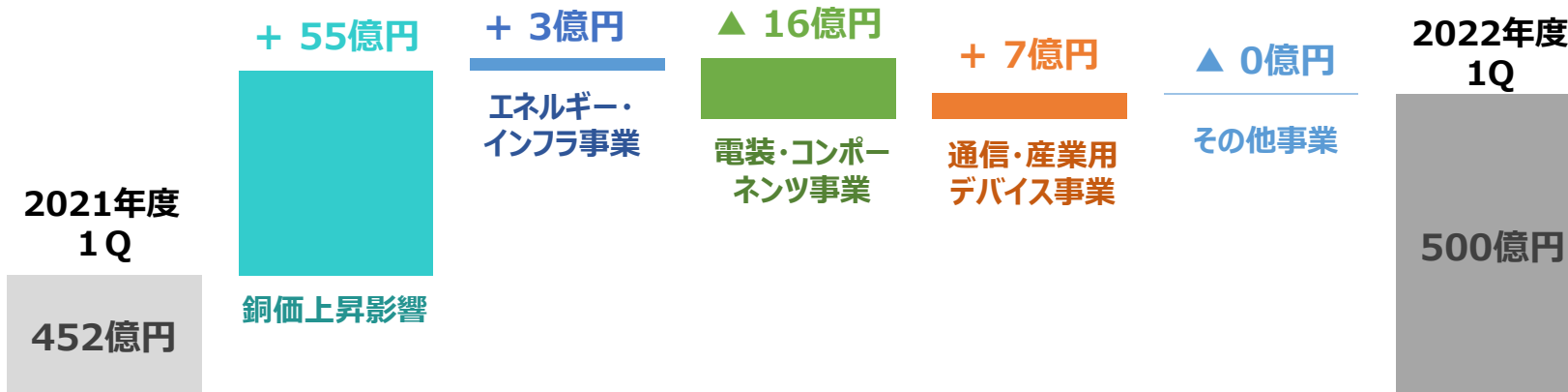
(単位：億円)	通期計画	FY18-21 平均進捗率	1Q進捗率
売上高	2,170	23.2%	23.1% →
営業利益	103	17.9%	20.9% ↗

1Q 連結損益計算書

(単位：億円)	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	2022年度 通期計画	前年同期比 %	進捗率 %
売上高	452	500	2,170	10.7	23.1
営業利益	26	22	103	▲16.0	20.9
営業利益率 %	5.7	4.3	4.7	—	—
経常利益	26	23	103	▲12.8	22.2
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	17	16	75	▲4.6	21.9

1Q 売上高・営業利益 増減要因（前年同期比）

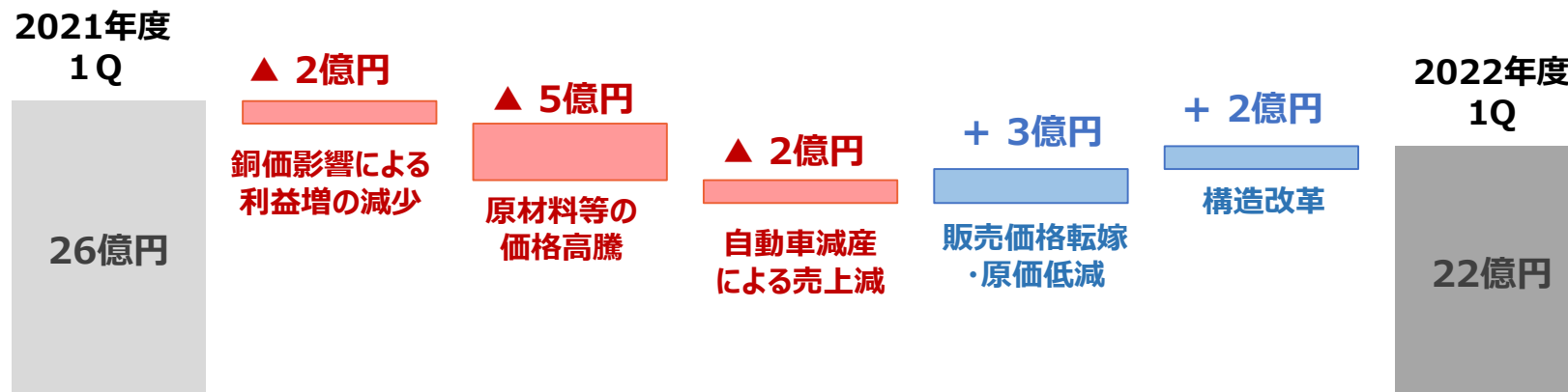
売上高増減要因



【増減要因】

1. 売上高
主に銅価上昇によるコストアップを適時に販売価格にスライドし増収。
2. 営業利益
一部製品での価格転嫁の遅れや、電装・コンポーネンツ事業での自動車減産による売上減等により減益。

営業利益増減要因



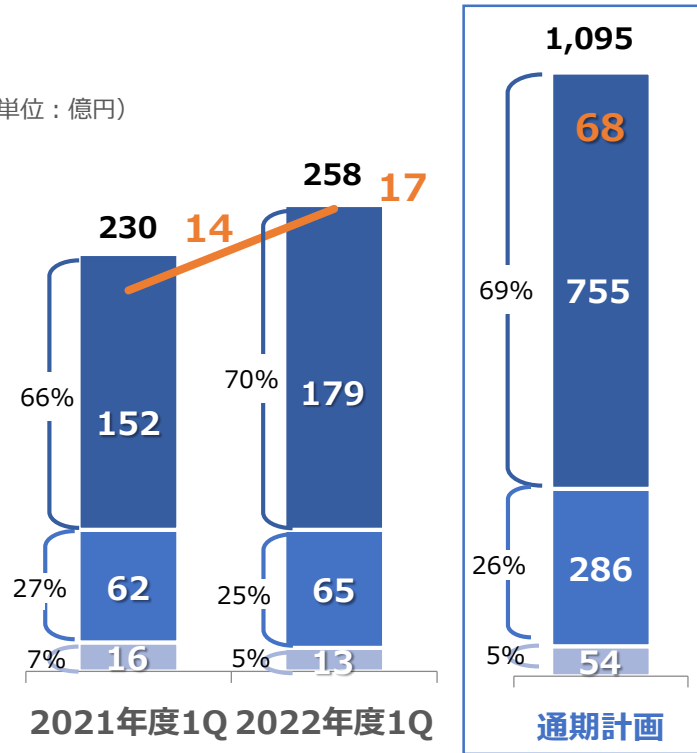
【今後の取り組み】

原材料等の価格高騰による利益押し下げ要因に対し、主に**販売価格転嫁・原価低減施策、構造改革**を推し進め力バー。

セグメント別 1Q業績および通期計画

■ 建設関連 ■ 電力インフラ
■ 免震・その他 ■ 営業利益

(単位：億円)

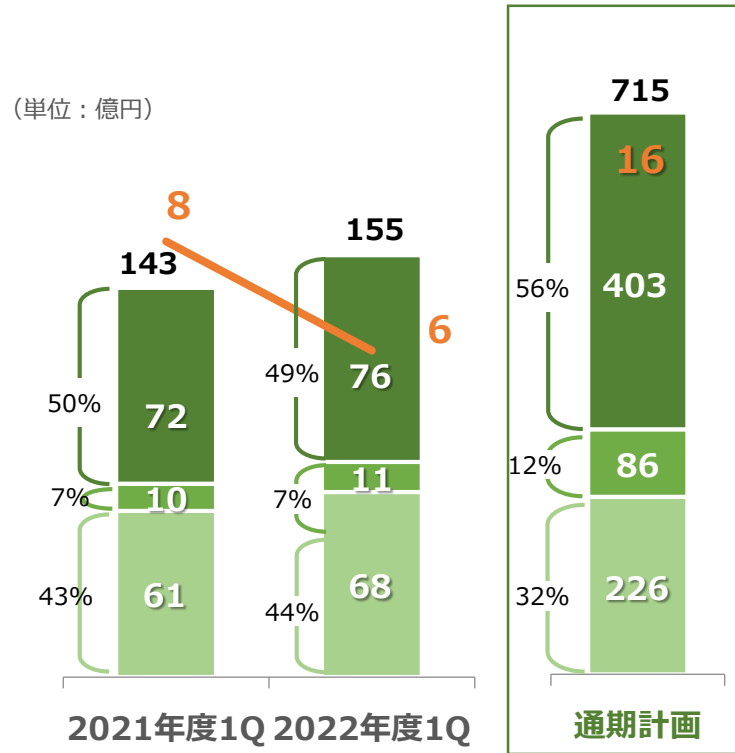


営業利益率	6.3%	6.5%	6.2%
-------	------	------	------

銅価影響：売上高25億円増
建設関連は販売価格見直しや原価低減を進め適正利益を確保し、電力インフラは収益性の高い再エネ需要を取り込んだことで、**前年同四半期対比増収増益。**

■ 高機能製品無酸素銅 ■ その他高機能製品
■ 一般汎用製品 ■ 営業利益

(単位：億円)

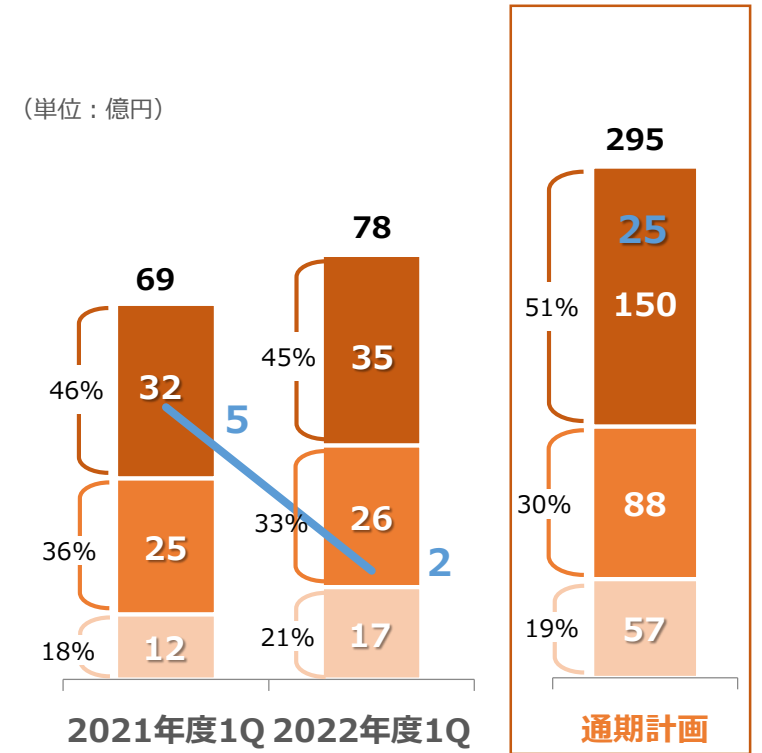


営業利益率	5.4%	4.0%	2.2%
-------	------	------	------

銅価影響：売上高28億円増
重電や産業機器向けは堅調であったが、自動車向け高機能製品は昨年2Qから続く自動車減産の影響を受け、**前年同四半期対比増収減益。**

■ 通信ケーブル ■ ワイヤハーネス
■ 精密デバイス ■ 営業利益

(単位：億円)



営業利益率	7.4%	2.2%	8.5%
-------	------	------	------

銅価影響：売上高2億円増
通信ケーブルは、国内生産拠点再編効果が出るも、価格見直しが遅延。更に産業用デバイスもサプライチェーン混乱の影響を受け、**前年同四半期対比増収減益。**

1 Q 貸借対照表（前期末比較）

（単位：億円）	2021年度末	2022年度1 Q	増減
資産合計	1,474	1,537	64
売上債権	527	522	▲ 5
棚卸資産	260	287	27
固定資産	587	615	28
負債合計	884	937	53
有利子負債	392	454	63
純資産合計	589	600	11
自己資本	583	592	10
自己資本比率(%)	39.5	38.5	▲ 1
DEレシオ(%)	67.2	76.7	9.5

【固定資産】

各種設備投資（更新・増産）により増加。加えて退職金制度の年金資産に21億円の特例掛金を拠出。

【有利子負債】

特例掛金と銅価格高騰により運転資金増大。

【自己資本比率】

自己資本は増加するも、総資産増加により、前期末対比1%減。

【DEレシオ】

自己資本は増加するも、有利子負債も増加したため、前期末対比9.5%増。



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。
なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）

経営戦略企画部 戦略課

TEL：044-223-0520

E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

昭和電線ホールディングス（株） 東証プライム（5805）